

市内花の名所

観音寺のサクラ

匠瑛探訪

- 47 -

春4月、サクラの季節となりました。市内での見所は黄門桜（飯高地区）、天神山公園と田町池端、東栄寺境内（いずれも中央地区）などがあげられます。

これから5月にかけて、境内に咲き誇る花を眺めながらの「花の寺」巡りも楽しみの一つかもしれません。

平和地区平木の観音寺では、10数年前に先代住職が植えた河津サクラ20本余りが見事に育ち、2月から3月の花見時には訪れる人もあったと聞きました。

観音寺は寺の名が示すよう



観音寺境内にある河津サクラ

境内入り口の1788年（天明8年）に建てられた石造物から、この寺が「新四国八十八か所」の第48番札所だったことが知られます。これは3年前の1785年に野中・長禅寺（旭市）の住職が、下総4郡（海上・香取・匝瑳・山武）を四国になぞらえ始めた遍路と結びつきま

す。
4月13日に結願（けちがん）する福善寺（中央地区）などの「東総お大師まいり」遍路（へんろ）は、幕末に登戸（共興地区）の渡辺権右衛門によって始められたとされますので、その後に再編されたのでしょう。

1835年（天保6年）の「西国供養塔」は平木村の仲才、蓮沼、初内、山集落や登戸、荻野村の石毛、宇井、鶴殿、川口、椎名、滝田、戸村、増田、渡辺姓の人たちによって建てられました。

観音寺には明治前期に間口7間・奥行4間の建物があり、これを教場に使用し平和小学校の前身がスタートしました。後に新校舎が現在地に完成したため明治30年以降取り壊され、本堂だけが残ったのでしょう。

市内には「花の寺」として飯高寺のボタンとアジサイ、飯高・妙福寺のフジ、木積・圓實寺（豊栄地区）のツツジなどが知られています。観音寺の河津サクラを育てた苦勞話も耳にしました。来春からここのサクラも「花の寺」に仲間入りすることでしょう。

問 八日市場図書館 83・3746